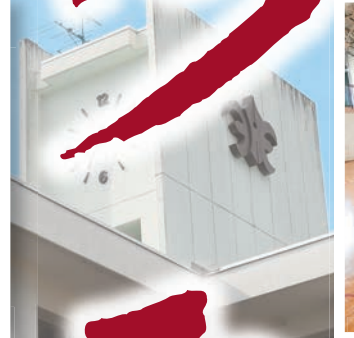


桜



雲



空



第66号
発行
岩手県立花巻北高等学校
桜雲同窓会事務局
TEL 0198-23-4135 FAX 23-1354
<http://www2.iwate-ed.jp/hkn-h/>
印刷 (株)菊忠印刷



「巖鷲山は岬々として」 の下に集いて

桜雲同窓会長

佐藤 良介

同窓生の皆様にはますますご清栄のことお慶び申し上げます。

日頃は、本校同窓会の活動につきまして温かいご理解とご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

本年一月一日には、能登半島地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

さて、昨年五月に新型コロナウイルスが五類へ移行し、日常生活もにぎわいを取り戻すようになりました。花巻まつりをはじめ各地のお祭りやイベントが四年ぶりに通常開催され、全国から観光客も訪れて頂き、大いににぎわいました。

同窓会活動においても、各支部の総会が通常通り開催されました。六月には大阪で関西桜雲同窓会総会、七月には石鳥谷、盛岡の各支部総会、九月には札幌で北海道桜雲会総会、十月には東京桜雲会総会、十一月には紫波支部総会がそれぞれ開催されました。四年ぶりに開催された支部もありましたが、多くの同窓生の出席を頂き、母校を懐かしみ、なごやかに歓談しておられました。応援歌を歌い、校歌を斉唱する皆様の

表情は、当時の花高生に戻り、生き生きと輝いて見えました。

昨年三月には、二〇一六年に姉妹校の締結をしたASSMSA(アーカソー数理芸術高校)に四年ぶりに生徒六名と教師一名を派遣致しました。現地ではホームステイをし、大いに交流を深めて帰国しました。本年三月には生徒三名を派遣致しました。これにより、グローバル化に対応できる広い視野を持った人材の育成がなされることを期待し、毎年継続して実施したいと考えております。

現在母校花巻北高では、二〇三一年の来るべき百周年に向けて「百年生きる君たちが花高百年の学びを創る」をテーマに、特色化・魅力化ビジョンに取り組んでいます。

その中で、人間力の育成を図ることを目的に「イーハトーブ花高から宇宙へ」をテーマとして、スペースプロジェクトに取り組んでいます。いよいよ本年には独自のミッションを持った衛星が打ち上げられます。どのような成果が挙げられるのか、今から大いに楽しみにしております。

在校生は、二〇二一年の東日本大震災とその後の復興、二〇二〇年か



らのコロナ禍と大きな環境の変化を経験してきたわけですが、皆前向きに明るく自分の目標に向かって、勉学に部活動に取り組み、文武両道を実践しています。しかも、ボランティア活動など地域への貢献活動にも積極的に取り組んでいます。その姿は先輩として頼もしく感じることであります。

さて、運動部・文化部にはOB会があり、現役の部活動を支援しております。陸上競技部は、昭和八年創部、昨年九十周年を迎えました。これを契機として昨年六月にOB会設立総会を開催し、桜雲陸友会が発足しました。陸上競技部からは、リオ、東京の五輪二大会出場の高橋英樹選手をはじめ石川周平選手など日本代表選手を輩出しております。今後はOB会として現役選手の応援に一層力が入るものと思われれます。

定期総会報告

岩手県立花巻北高等学校桜雲同窓会総会が令和五年八月五日(土)十四時より、グランシエール花巻において開催されました。八月第一土曜日に例年行われる総会はコロナ禍により近年は縮小されていましたが、今年度は四年ぶりに講演会、懇親会も含めての通常開催となりました。来賓に花巻市長、校長、副校長、事務長、花巻南高校同窓会長、花巻北高校PTA会長をお迎えし、同窓生約八十名の参加を得て行われました。

〈協議事項〉

- ① 令和四年度事業報告について
- ② 令和四年度 一般会計収支決算について
- ③ 令和四年度周年事業積立金収支決算について
- ④ 令和四年度国際交流事業積立金収支決算について
- ⑤ 令和四年度百年の学び基金収支決算について
- ⑥ 令和五年度事業計画(案)について
- ⑦ 令和五年度一般会計収支予算(案)について
- ⑧ 令和五年度周年事業積立金収支予算(案)について

講演会は講師に岩手県立博物館館長の高橋廣至氏(第38期)を迎え、「あれから半世紀 今母校に思うこと」という演題で母校への熱い思いを伝えていただきました。

会場では懐かしい同窓生同士の語り合いがあちこちに見られ、元応援団幹部の高らかなエール、全員での応援歌、校歌斉唱など、盛況のうちに終えることができました。

会場では校歌や花高賛歌、遠征歌、黒橋魂の手ぬぐいの販売、九十年記念で作られたブックカバーも販売され、多くの皆さんに手に取っていただきました。

○支部総会開催状況

- 関西支部 六月十日
- 紫波支部 七月二十七日
- 北海道桜雲同窓会 九月十六日
- 東京桜雲会 十月十四日

令和4・5年度 桜雲同窓会役員

役職名	氏名(期)
会長	佐藤 良介(33)
副会長	高橋 光彦(34)
副会長	上田 穰(36)
副会長	斎藤 雅博(36)
副会長	狩野 敦史(37)
副会長	古川 勉(38)
副会長	稲垣 秀悦(40)
副会長	伊藤 純子(41)
副会長	北山 公路(43)
副会長	菊池 忠彦(44)
副会長	太田 優子(44)*
副会長	小瀬川 弘樹(49)*
顧問	上田 東一(37)
顧問	須川 和紀(校長)
監事	高橋 勝芳(28)
監事	宮澤 一郎(30)
監事	高橋 文一(39)

*印は新任の役員

令和5年度桜雲同窓会一般会計収支予算書 令和5年6月1日～令和6年5月31日

Table with 5 columns: Item, Previous Budget, Current Budget, Change, Remarks. Includes sections for income and expenses.

Table with 5 columns: Item, Previous Budget, Current Budget, Change, Remarks. Continues income and expense details.

(※)：(収入の部)の「入会金」より689名×100円×10回＝689,000円を充当

令和4年度桜雲同窓会一般会計収支決算書 令和4年6月1日～令和5年5月31日

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Includes sections for income and expenses.

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Continues income and expense details.

収入 支出 残高
¥5,133,032 - ¥3,836,648 = ¥1,296,384 残額は、次年度へ繰り越す。

令和5年度桜雲同窓会国際交流事業積立金収支予算書

令和5年6月1日～令和6年5月31日

Table with 5 columns: Item, Previous Budget, Current Budget, Change, Remarks. Includes sections for income and expenses.

Table with 5 columns: Item, Previous Budget, Current Budget, Change, Remarks. Continues income and expense details.

令和4年度桜雲同窓会国際交流事業積立金収支決算書

令和4年6月1日～令和5年5月31日

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Includes sections for income and expenses.

Table with 5 columns: Item, Budget, Actual, Change, Remarks. Continues income and expense details.

収入 支出 残高
¥4,501,717 - ¥1,300,000 = ¥3,201,717 残額は、次年度へ繰り越す。

講演会 令和5年8月5日(土)
演題「あれから半世紀 今母校に思うこと」
講師 高橋 廣至氏(38期)
岩手県立博物館 館長
1954年生まれ、八幡平市大更出身
1975年、花巻北高等学校卒業
1978(昭和53)年、二松学舎大学文学部国文学科卒業
久慈高、金石商業高、水沢高赴任後、岩手県教育委員会指導課・学校教育課勤務。山田高教頭、盛岡一高副校長を歴任後、高田高校長。岩手県教育委員会学校教育室首席指導主事ほかを経て、盛岡一高校長。同校史上初のOB以外の校長となる。同時に岩手県高校校長協会会長・東北高等学校長協会会長・全国高等学校長協会副会長。退職後は岩手県立大学学生支援室特命課長を経て、2016年より岩手県立博物館館長。

桜雲同窓会支部長

Table with 2 columns: Branch, Name (Term). Lists branch heads across various regions.

※宮野目支部、北上支部は活動休止中。



新しい時代を切り開く

校長 須川 和紀

桜雲同窓会会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に格別な御理解、御支援を賜り誠にありがとうございます。この場をお借りして深く感謝申し上げます。今年度も関西、東京、札幌をはじめ各地の同窓会にお招きいただき、改めて皆様の母校への熱い思いを受け取って参りました。

本校は、8年後の創立百周年に向けて新たな歩みを進めております。ここ数年間はコロナ禍のため活動が制限される中、どの学校行事も柔軟に対応できるよう生徒と話し合いながら、その時々に行えることを精一杯工夫して実施してきました。その制限が5類に移行した5月以降もコロナ前に戻すだけではなく、もう一度行事のあり方や意義を問い直しながら、より良い形を模索して取り組んでいます。生徒たちは「花高らしさ」「花高だからここを大切にしながらも、時代や社会の流れを見極め、新しい価値を創造すべく共に考えながら学校生活を送っています。



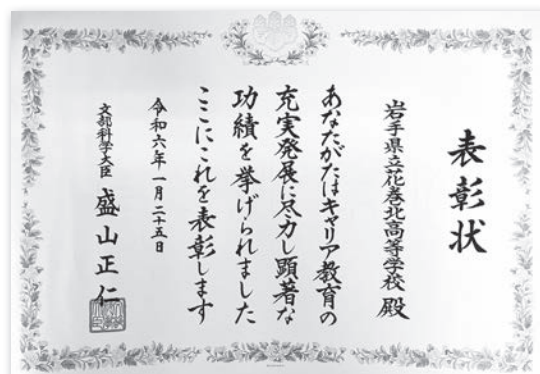
自身が模擬体験したり、衛星開発の第一人者や宇宙飛行士の講演会、また、タンパク質結晶化実験を通して宇宙実験の重要性を学んだりするなど、全校あげてこのプロジェクトに参加し、学びを深めています。さらに関

心の高い希望者は、東京大学や外務省宇宙・海洋安全保障政策室の訪問、富山県で開催された航空宇宙学会でのプレゼンテーションなど、まさに「世界で一番宇宙に近い高校生」として貴重な経験を積んできました。

今後は、夏頃に本校独自の人工衛星「よだか」が種子島からアメリカ合衆国で打ち上げられ、その後、人工衛星の運用についても学校全体で関わっていく予定です。今回は2年間のプログラムで、本校OBでもあるSPACE VALUEの安藤様のご

支援をいただきながら進めておりますが、持続可能な形を模索しながら百周年まで継続していきたいと考えております。

このプロジェクトを通じて、生徒たちにはぜひ広い世界に目を向け、未知の世界にも怖がることなく挑戦する心を育んでほしいと願っています。これからは花巻北高校の文化として教科横断的な学びを進め、非認知能力や起業家精神を育成していきたいと思っております。挑戦と失敗を繰り返しながらも、様々な困難な状況でも実践的な課題設定力や意思決定力を発揮していける精神を育んでいくことを目指したいと考えます。昨年策定した「スクールポリシー」(各学校で目指す姿)の中にある「自己認識」「自己管理能力」をベースとした、いわゆる宇宙飛行士に求められる8つの能力、言い換えればこれからの社会に貢献できる人材に求められる能



学ぶ力と人間力を育む教育活動が高く評価され、文部科学大臣表彰を受けました。

表彰状

岩手県立花巻北高等学校 殿
あなたがたは「キャリア教育の充実発展に尽力し顕著な功績を挙げられました。ここにこれを表彰します」
令和六年一月二五日
文部科学大臣 盛山正仁

力の育成を目指しています。「学ぶ力の育成」だけではなく、その礎となる「人間性の育成」、心を育てることをまず何よりも大事にしています。これらの取組は、花高生が大きな

支部だより

盛岡支部

四年ぶりの支部総会・懇親会を開催

盛岡支部長

眞下卓也(46期)

夜の盛岡に、花巻北高校の校歌と応援歌が響きました。

令和五年七月二十七日、桜雲同窓会盛岡支部の総会・懇親会が開かれました。新型コロナの影響で四年ぶりの開催でしたが、事務局の積極的な

変革が求められるこれからの時代をしなやかに生き抜くために必要なものです。「黒橋魂」や「桜雲臺精神」を兼ね備えた「りっぱな公民」となって、今まで以上に多様な人々と協働しながら新たな価値を創造し、地域や国内外で活躍することを期待し取り組んでいるものです。また、経験豊かな同窓生の皆様のサポートをいただき、新たな視点を兼ね備えた花高卒業生と一緒に課題を解決し、今までの常識を打ち破って世の中を変えていく原動力となっていくことを願っており、関わる集団や地域の中でなくてはならない存在となつて活躍することを期待しております。

今後とも桜雲同窓生の皆様の母校花高への変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに同窓会の益々の発展をお祈りいたします。

呼びかけもあり、昭和三十一年卒の大先輩(20期)から平成三十一年卒の若手(83期)まで、およそ九十人の卒業生が集まりました。

総会には、来賓として佐藤良介桜雲同窓会長、花巻北高校の成田誠悟副校長、桜雲同窓会事務局の高橋和利教諭にご出席いただきました。司会はIBC岩手放送の長谷川拳杜アナウンサー(76期)です。逝去された方への黙祷、校歌斉唱に続いて、支部の収支決算や役員改選をご提案し、承認いただきました。役員の新しい体制は、留任が六人、新任が私を含めて六人となります。これまで支部長を務めていただいた、いわぎん

表彰

●令和五年度春の叙勲・褒章

○坂本 知彌【29期】
藍綬褒章 更生保護功績
(保護司)

○田面木 哲也【30期】
旭日単光章 中小企業振興功勞

(株)ニュートン代表取締役

●令和五年度秋の叙勲・褒章

○神戸 典臣【22期】
旭日中綬章 地方自治功勞

(元北海道議会議員)

○阿曾 秀昭【36期】
瑞宝中綬章 財務行政事務功勞

(元四国財務局長)

○望月 正彦【34期】
瑞宝小綬章 地方自治功勞

(元岩手県盛岡地方振興局長)

○亀沢 健【36期】
瑞宝双光章 地方自治功勞

(元花巻市副市長)

●花巻市市勢功勞者表彰

《地方自治功勞》

○亀沢 健【36期】
(元花巻市副市長)



事業創造キャピタル(株)の稲垣秀悦社長(40期)は、この総会をもって退任されました。コロナ禍の中、支部の運営についてはご苦勞も多かったことと思えます。本当にお疲れ様でした。この場をお借りして御礼を申し上げます。

懇親会では冒頭、成田副校長から「花巻北高校スペースプロジェクト」などの取り組みを紹介いただき、在校生の皆さんの様子を頼もしく拝見しました。終盤には第一応援歌と共に歌い、元応援団幹部によるエールも披露されました。懐かしい方々と久しぶりに顔を合わせたという事もあつて懇親会は大いに盛り上がり、皆さん、次年度の総会での再会を誓っていました。

今後も、桜雲同窓会の発展、そして在校生のお役に立てるよう、支部としても精一杯取り組んで参ります。皆様のご指導をよろしくお願いいたします。

紫波支部

五年ぶりに総会開催

紫波支部 支部長

高野 勝 夫(41期)

「あれから五十年」。私事ではあります。花巻北高校に入学し、入団式に臨んだ際の衝撃は、五十年経った今でも鮮明に覚えています。皆様はいかがでしょうか。

令和五年十一月開催の桜雲同窓会紫波支部総会において、第?代の支部長に選任され、この原稿を書いています。

紫波支部の総会は隔年で開催しておりましたが、コロナの影響で、今回は五年ぶりの開催となりました。

会員数は不明ですが、本部から佐藤良介会長、成田誠悟副校長、照井雅巳事務局を迎え、三十数名の参加のもと新体制の承認を得、その後の懇親会では、高校時代の思い出話などで交流を深めました。締めは、いつものとおり校歌斉唱にはじまり、全ての応援歌、花高賛歌、月歌、遠征歌、追遥歌そして勝利の歌を歌い(さながら、五十年前の応援歌練習状態)会を閉じました。

紫波支部では隔年総会の他に、花高応援団の野球応援のための夜間(昼間)歩行に際し、紫波町において激励及びエール交換を行っています。直近では令和五年七月六日に行いましたが、応援団幹部が一人しかいないとのこと。幹部OBの私としては少し寂しい感がありますが、これも時代の流れかもしれません。

何はともあれ、令和六年も母校花高にとつて飛躍の年になることを願い、支部だよりとします。

北海道桜雲同窓会

定期総会・懇親会の開催

北海道桜雲会会長

海老原 浩 樹(36期)

念願叶って四年前に創設出来た北海道桜雲会でしたが、思いもよらぬコロナ禍により、三度に亘って休止を余儀なくされました。昨春の五類感染症への移行を受けて、九月に二回目の定期総会を開催致しました。



久しぶりの行動制限がない行楽の秋も相俟つてか、ホテル事情も様変わり、会場の選定難航は全くの想定外でしたが、漸くの思いで確保する事が出来ました。ご協力頂きましたご来賓の方々には、改めて感謝申し上げます。

産声を上げて間もなく長い休止期間を挟んだ事もあり、今回の参加者は九名に止まり、お迎えしたご来賓者を交えて総勢十二名での総会となりました。

ニューフェイスはなく、いずれもお久しぶりの参加者でしたが、コンパクトにひとつのテーブルを囲んでのひとときには、再会の喜びが満ち溢れていました。

総会では、神戸典臣会長から役員人事の発議があり、審議を経て、二代目の会長に海老原浩樹が就く事となりました。



増しました。近況報告では、知らなかつた二面が顔を覗かせると思わず興味をそそられ注目的に。須川校長先生が語る今様の花高生には、往時の我が身を想い起こしながら、心は花巻、桜雲臺にタイムスリップしているかのような潤んだ瞳が見受けられました。故郷から遠く離れた蝦夷地ならではの同窓会の光景でした。

北海道では、会員の凡そ半数が札幌近郊以外にお住いで、集いの難しさを内在しています。働き盛り、子育て世代の参加の困難も抱えています。

総会、集い頼みの同窓会活動には限界を感じています。時代のコミュニケーションツールを活用しての相互交流、母校の話題、故郷「岩手」「花巻」の情報提供しながら、桜雲臺を身近に感じて貰える、そんな運営を模索したいと思っております。

同期会だより

『米寿目前同期会』の開催

二十期幹事代表 小原 武

私達は桜雲第二十期、花北第三回生です(一九五六年三月卒業)。在学中は新生間もない花北の伝統作りに互いに切磋琢磨し、文武両道で盛岡一高を凌駕する県下随一の実績を挙げた誇りを持ち、卒業後はそれぞれ

に働き、人生を生き抜いて、今、老境にあります。

卒業後も同期の結束は固く、還暦、古希、喜寿、傘寿のそれぞれの節目に、花巻温泉に一泊して同期会を開催し、親睦を深めてきました。

本年八十八歳の米寿を迎えるにあたり相談した結果、勿論同期会はやる、しかもコロナで友に会いたくとも会えなかった時間を取り戻そう、と言うことになり、時期を半年繰り上げて、「米寿目前同期会」と銘打って、令和五年七月一日に開催いたしました。但し、さすがにこれまでの温泉一泊は見送り、昼に市内のホテルでの開催となりました。

当日は、四十三名の同期生が参集しました。幹事の当初の予想を遥かに超える嬉しい参加数でした。全員が、車椅子にも付添いにも頼らず、自分の足でやってきました。恒例の校歌、応援歌の高唱のち、各人の近況を報告し合って互いの健在ぶりを喜び合い、学生時代の思い出話を花を咲かせました。また、桜雲同窓会長の佐藤良介様が終始ご同席のうえ北高の現況を詳細に説明して下さい、一同母校の活躍ぶりにエールを送りました。

高校の同期会が米寿の祝賀会まで開いたのは県下ではもとより全国でも極めて稀な例ではないか、と自負しています。全員が、二年半後に、九十歳の「卒寿」の同期会で再会することを誓って、別れました。



一年遅れた「喜寿の会」を 五十四名で祝う!

桜雲二十九回生の会

阿部 弥之

私たち「二十九回生」は昨年九月二十四日、花巻駅前ホテルを会場に「喜寿の会」を五十四人が集まって祝いました。この会はコロナウイルスの感染予防のため、二年延期して開いたものです。

私たちは昭和四十六年(一九六五年)三月に卒業した五クラス二五八名の同期会です。教えられた金子勝



治・高橋恒介先生たちの協力もあって、二年ごとに総会をもって、「還暦」「卒業五十年」など企画し、実施してきました。クラス幹事の努力で、住所不明者は十三名で、「喜寿の会」の案内も一八九名に届けました。返信は二三五名からあり、五十四名が参加してくれました。悲しいことに、喜寿を待たず旅立った友人が五十名もあつたことが分かりました。

会場では誰もが大きく変わったお互いの容姿のなかに六十年前の面影を見出しながら接し歓談しあい、明日からの「元氣」を約束して散会しました。

桜雲四十五期 還暦を迎え二十年ぶりの同窓会

発起人会代表 菊池 徹哉

令和五年十二月二日、花巻市渡り温泉さつき亭において、桜雲第四十五期(昭和五十六年卒業)同窓会を開催いたしました。当日は、高橋敢也先生(在学当時C組担任)、藤原忠雄先生(同B組担任)と、同級生六十八名が参加しました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上五類への移行(五年五月)を待ち、満を持しての開催です。

この学年の同級生は、令和四年度に還暦を迎え、五年の三月をもって定年退職している方が大勢います。「還暦で人生一回り」と申しますが、人生の再出発に際し、「現在の自分を確立するにあたり大きな影響を受けた花巻北高校時代の仲間と語り合いたい」、「還暦のタイミングを逃した

らもう集まらないかもしれない」という思いが、発起人となった各クラスの代表者を奮い立たせ、同窓会の開催を実現しました。

記念写真撮影、校歌斉唱、乾杯、高校当時の写真によるスライドショー、恩師のスピーチ、玄人はだしの自称陶芸家に参加者全員分のコーヒークップを焼き上げて一人一人に配るサプライズ、応援団幹部による花高賛歌と自分達へのエールで、完全に四十数年前にタイムスリップした参加者は、二次会、三次会でも語りつくせず、仕事の都合で夜十一時によくやく到着した者を交えてさらに大盛り上がり。二十年ぶりの同窓会は、参加者一人一人が元気をもらおう、たいへん思い出深い日となりました。



内外で活躍する

OB・OG紹介



文化講演会として

ふたたび母校に立つ

国境なき医師団・虎の門病院

東梅 久子 (46期)

ほぼ四十二年ぶりに母校の体育館に足を踏み入れた。自分がかつて着ていた同じセーラー服の在校生たちが一堂に会している光景はただそれだけで感動的であった。求められる声の大きさは異なるものの、大勢の在校生の前で声を出したのは応援団の入団式以来である。応援歌練習では声が小さいと竹刀で叩かれたものの、声は未だに小さいままで校歌を除くと必死で覚えたはずの応援歌もなかなか出てこない。

誠天地を動かさんの手ぬぐいを見つけてはできなかった。岩手医科大学を卒業して産婦人科医師になった私は、国境なき医師団の医療コーディネーターとしてインドネシアのジャカルタで貧困層の性産業従事者に対してHIVを含む性感染症の治療と啓発活動を行った。当時の活動と今なお世界各地で起きている紛争と性暴力を中心に話をした。机に伏すのが苦手で船を漕ぐ居眠りが得意な高校生であった私は、大の字になって椅子で寝ている高校生に親近感を抱きつつ、性的話になると急に起きて真剣に聞く姿をほほえましく眺めた。高校時代は海外とはいえ欧米に目が向き、英語も手袋ではなく目的と考えていたように思う。ご多分にもれず高校卒業後は専門分野を除きさしたる勉強もしなかったものの、海外での活動において花巻北高での英語や世界史などが生かされた。周囲も認める苦労をいくつもしたものの、アジアの親国にあつてホームシックになることもなかった。赤道直下で時口をつくの、我々とした巖鷲山ではなく月歌だったりした。

非営利の医療・人道援助団体である国境なき医師団(MEDICINS SANS FRONTIERES: MSF)の卒業校講演の一貫として昨年十月二十四日に「花巻北高から国境を越える」のタイトルで母校での講演の機会を頂いた。講演が決まらずセーラー服を探した。それは記憶の場所に確かにあった。おそらくは卒業以来初めて開けた箱のなかのセーラー服は予想に反して保存状態がよく、眺めていると釜石線やバレーボールや試験などさまざまな記憶が蘇ってくる。どこかにはあるはずの手ぬぐいも探したものの、見つかったのは卒業記念品の南部鉄器の花瓶のみで、好きだった至

講演後に国境なき医師団の事務局にアンケートの回答が届けられた。担当スタッフから六百四十余名ほぼ全員が感想文をぎゅぎゅ書き、多方面から講演を受け止め深く考えたことに感動したとの文章が添えられていた。卒業校講演であることから、私は他のプログラムを知らない。それでも話を真剣に聞いて回答しようとする姿勢は花巻北高生の昔から変わらぬ姿なのではないかと、目の前に座っていた在校生と既に擦れてしまつた遠い自分を擦り合わせながら思った。至誠天地を動かさんが好きだった高校生は、至誠が天地を動かさないといつづつ至誠を思い生きている。講演のなかでも至誠動天に触れたものの、期待に反してアンケートで言及した高校生はひとりもなく、ほとんどは支配を目的とした性暴力が印象に残つたようであった。

高校時代はそれなりに一所懸命だったつもりであったが、思い返せば東和出身ということも手伝いぼんやりとしつつも楽しかった。講演後に集まつて話した高校生たちも高校生らしく楽しかった。その高校時代があつて今日があるに違いないと思ひながら晩秋の早い夕暮れにつつまれた母校を後にした。

最後に講演の機会を頂きました同窓会長佐藤良介氏、須川和紀校長先生をはじめ開催にあつてお世話になった皆さまに心より御礼申し上げます。に、ひとときを同じくした母校の後輩たちが夢に向かって進み続けることをお祈り申し上げます。

令和4年度文化講演会 令和5年10月24日(火)

花巻北高から国境を越える

～産婦人科医としてみた
インドネシアの貧困層の性産業従事者～

講師 東梅 久子氏 (桜雲 46期)

虎の門病院 産婦人科医長(国境なき医師団)

花巻市東和町出身。1988年岩手医科大学医学部卒業。日本赤十字社医療センター産婦人科員、虎の門病院産婦人科医員、岩手医科大学医学部産婦人科助手、東京大学医科学研究所客員研究員を経て、2001年東京医科歯科大学にて学位取得、医学博士。2001年岩手医科大学医学部産婦人科講師、2005年虎の門病院産婦人科医員、2009年虎の門病院産婦人科医長、現在に至る。●国境なき医師団としての活動:2003年～2004年、インドネシア。

概要

今年度の文化講演会は、桜雲同窓生である虎の門病院産婦人科医長(国境なき医師団)、東梅久子氏をお迎えし、「花巻北高から国境を越える～産婦人科医としてみたインドネシアの貧困層の性産業従事者」という演題で行われた。多くの生徒が、自分たちからは遠いところで起こっていると思っていた場所での悲惨な現実、先輩である東梅氏が向き合っている姿に感化された。将来に

向けて、今、ここで何をすべきかを考える素晴らしい機会となった。

生徒感想

●国境なき医師団について、英語の授業で取り扱ったので、紛争地での任務については少し理解していたのですが、紛争地で外科手術をすることだけが活動ではなく、様々な活動を行っていることがわかりました。特に印象に残ったお話は、治療を行ってすぐの売春婦が病院前でお客さんを誘っているのを止めようとしたところ、「じゃああなた達が私の食べるものを用意してくれるの?」と言われたというお話です。体を大切にしてほしいという善意と、生きていかなければならないという現実、どちらも容易に想像できたため聞いていて苦しくなりました。このお話から、問題を解決する難しさを改めて実感しました。私は人間の臓腑や血を見るのが苦手で、医師には向いておらず英語も得意ではありませんが、国境なき医師団のことを少しでも知ることで貢献したいと思いました。(2年生)

●国境なき医師団が国内でも活動していること、医学部に入らずとも国境なき医師団に入ることができること、怪我の治療だけでなく、ストレスケア等もなっていることなど、初耳な情報が多くあり、とてもタメになりました。東梅さんが花北出身ということもあり、時折混ざる花北トークに和みながらお話を聞くことができて、とても楽しかったです。「北高の語学力があれば大丈夫」というのが、これから生きていくうえでの自信に繋がりました。大きくなったら、絶対に寄付します!(2年生)

●花巻北高の卒業生のことや東梅さん自身のお話を聞くことができ、自分の可能性は思ったより広いのかも知れないなと思いました。また、国境なき医師団についてよく知らなかったので自分の世界を広げることができて有意義な時間になりました。国際社会について、なかなか聞くことのできないお話を聞くことができ、自分の将来に役立てたいと思いました。(1年生)

H×ACT〔Hanakita×ACT(ハクト)〕活動紹介

「誰もがスマートフォンを持ち、容易に検索できるようになった今、「調べたこと」に価値はありません。「行動すること」にこそ価値があります。失敗してもいいので行動できる花高生になってください。」

花高新生生に向けて4月に行われる、H×ACTガイダンスで必ず伝えている内容です。行動する(ACT)ことに挑戦する花高の「総合的な探究の時間」は、「H×ACT(ハクト)」という名称で体系化され、今年度で3年目を迎えています。持続可能なH×ACTの在り方を模索し、他校に類を見ない、花高独自の「総合的な探究の時間」を展開しています。以下、H×ACTにおける活動を紹介します。

H×ACTという名のもとに、すべてのH×ACTの行事を有機的に結び付けて実践しています。①ハクスタ ②ハクプレ ③ハクツア ④ハクレク ⑤ハクフィ。この5つの大きな行事が、H×ACTを支えています。

①ハクスタ(ハクトスタディの略称: H×ACT Study)



ハクスタの時間は、毎週木曜日の6校時に設定されています。各グループまたは各個人で設定した探究テーマに沿って、それぞれの探究活動を進めます。探究テーマは、生徒の興味関心に基づいて決定されるため、地域課題から日常生活における話題など多岐に渡ります。今年度からは、先行研究を調べる際に、生成AIを用いることを推奨しています。そこで捻出された時間を用いて、「新提案」、すなわち「世の中の誰も考案したことのない提案をすること」を目標に、どのグループも答えのない問いに挑み続けています。3年生の最終段階では、ハクロン(ハクトロンブンの略称: H×ACT 論文)と呼ばれる論文の提出をめざし、探究活動を形にします。1年生が、2・3年生の探究活動の様子をインタビューできる機会があることも魅力の一つです。

②ハクプレ(ハクトプレゼンテーションの略称: H×ACT Presentation)



ハクプレは、探究活動の集大成として行われる発表会です。この発表を通して、それぞれの探究内容を発信し共有します。ハクプレⅠでは、学年毎に小教室に分かれ、すべてのグループが探究内容を発表します。生徒間で相互評価が行われ、「行動した」内容が含まれていれば、高評価につながります。また、生徒間での質疑応答を通して、協働的な学びを深めていることも特徴の一つです。ハクプレⅠの優秀グループは、第一体育館で行われるハクプレⅡに進出し、全体発表を行います。その中で、その年の最優秀グループが決定します。大観衆を前に、堂々と行

われる発表は、まさに圧巻の一言です。

③ハクツア(ハクトツアーの略称: H×ACT Tour)



ハクツアは、ハクプレⅡの上位入賞グループに与えられる、研修旅行(茨城県つくば市)です。上位入賞グループの探究活動の発展に関連する施設を、つくば市内にある30前後の施設の中から選び、訪問してきます。今年度は、2年生6人の生徒が

JAXA筑波宇宙センターや国際農林水産業研究センター等を訪れてきました。

④ハクレク(ハクトレクチャーの略称: H×ACT Lecture)



ハクレクは、外部から講演者をお招きして行われる講演会です。「着想から行動へ」というテーマのもと、探究活動を深掘りできる内容を講演していただきます。これまで、起業家、大学院生、市役所職員の方々をお招きして、有用な講演をいただいております。

⑤ハクフィ(ハクトフィールドワークの略称: H×ACT Fieldwork)



ハクフィは、1・2年生を対象として10月に行われる校外活動です。探究活動を深めるために、岩手県内の専門家(企業・個人宅等)

に生徒自らアポイントメントをとり、インタビューをしてきます。地域の大人の方々と関わる貴重な経験を通し、探究テーマを発展させるヒントを得て、その後の探究活動に活かします。今年度も、多くの専門家の皆様のもとを訪問させていただきました。



H×ACTでは、意欲的に活動しているチームを中心に、各種外部コンテストに応募することを推進しています。その中でも今年度は、8月に盛岡市で行われた「いわて高校生政策甲子園2023」において、2年生のチームが、

最優秀賞に輝きました。それ以外のチームも、探究活動の成果を校外へと積極的に発信し続けています。まだまだ発展途上ではありますが、H×ACTはこの後も花高生の高校生活を活性化させていきます。同時に、H×ACTを通じて、花高生はこれまで以上に「行動」していきますので、今後のH×ACTにご期待ください。

「総合的な探究の時間」担当教諭 多田 昌弘(64期)

部活動報告

陸上競技部

来年度に向けて

二年 立花 雄駿
 私たち陸上部は、昨年11月9日に行われた「東北高等学校駅伝競走大会」に出場した。昨年に続き二年連続での出場であった。



私はそのどちらも1区を走らせてもらった。一年生の時は3km過ぎから一気にペースダウンしてしまったが、今回の東北大会では最後に上げきって襷を繋ぐことができ、チームに勢いをつける走りができた。

チーム全体としても、一昨年のタイムから3分33秒縮めることができ、歴代の花高記録を塗り替えることに成功した。一昨年の自分を一人一人が超え、一年生も初の東北大会だったにも関わらず全

力で走り切りしっかりタイムをまとめてくれた。現在の駅伝メンバー全員が東北大会を経験しているということは来年度の駅伝に向けてとても大きな意味を持つだろう。

来年度は東北高校駅伝8位入賞、そして全国高校駅伝出場という目標に向け、仲間と共に邁進していきたい。

水泳部

自分と向き合う

二年 和賀 結



私は8月17日から20日に北海道で行われた全国高等学校総合体育大会水泳競技大会に、昨年度に引き続き100メートルと200メートルの自由形で東北代表として出場してきました。インターハイまでの期間で、調子のアップダウンが激しく、納得のいく練習ができない日も続いていましたが、自分の泳ぎを一回一回直して改善点を明確化することで一回一回の練習に対する意識を保つことができました。レース本番ではシーズンベ

ストタイムではあったものの、全国大会のレベルの高さを痛感させられました。まだまだ結果として納得できるものではなかったため、日々の積み重ねを大切に、さらなる高みを目指して進み続けていきたいです。

私が昨年度に引き続いてインターハイという全国の舞台に立つことができたのは、多くの方々の支えや応援があったからです。本当にありがとうございました。

剣道部

全国選抜大会を通して

三年 菅崎 大道

私たちは昨年愛知県で行われた全国高等学校剣道選抜大会に出場しました。チーム一丸となり岩手県の予選をなんとか勝ちきって、全国という大きな舞台でトップレベルの選手たちと剣を交えることができたのは我々にとっても貴重な経験でした。試合では島根県のチームに惜敗し、結果を残すことはできませんでした。しかし、大会前の錬成会を含め、全国の舞台で仲間を信じ、一人一人が自分の持ち味をいかした剣道をする



ことができました。今までの活動を振り返ってみると、同じ志を持ち、目標に向かって切磋琢磨し合える仲間と出会い、辛い時でも助け合いながら稽古に励んできた過程が何よりも私たちを成長させてくれたと思います。

私たちがここまでやってくることにできたのは先生方や家族、仲間など多くの方々の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

弓道部

インターハイに出場して

三年 武藤 大輝斗

私はインターハイで優勝することを目標に日々努力を重ねましたが、結果優勝することはできませんでした。全国の頂点に立つことの難しさを痛感し、とても悔しかったのですが、常に弓道を第一に最後まで全力で挑んだので、後悔は一つも残りませんでした。

私はインターハイを通じて、目標に対して全力で取り組むことの大切さを感じま



した。ただ練習量を増やしても意味はなく、自分なりに考え工夫したり、周りの人からアドバイスをもらい、量と質の両方を確保しなければ勝つことができませんでした。こうやって自分の頭を使い工夫してきたことは高校卒業後でも役に立つてくることがだと思います。後輩のみなには信念をしっかりと持って、それぞれの目標を現実させるために最後まで諦めずに努力してほしいと思います。

最後になりますが、これまで私のことを支えてくれた方々に本当に感謝しています。今度ありがとうございます。

アーチエリー部

原点が自分を強くする

三年 田中 悠子

私にとってインターハイは二年半の部活動の集大成となる大会でした。一年生の頃からずっと憧れ、特に自分たちの代になってからは先輩方が成し遂げられなかった団体での出場を目指し技術を磨いてきました。団体戦出場は叶いませんでしたが個人戦でインターハイ出場権を得られ嬉しく思います。本番では仲間の思いを背負い全てを出し切ってきましたが、結



果としての点数と順位には悔しさが残っています。もつと風の方向を考え一本でも多くインナーテンに入れていたらと後悔が尽きません。大きな大会になるほど一点の重みと中心に矢を放つ難しさを痛感しました。

選手や人間として大きく成長し、最後までやり遂げられたのは、インハイ出場という目標を持って練習し続けたからだと考えます。この目標に向け精神面や技術面で支えて下さった先生方、コーチや先輩方と一緒に練習してきた仲間には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

卓球部

卓球を通して学んだこと

三年 高橋 愛飛

私は中学生のころからシングルスで東北大に出場するという目標を持っていましたが、達成することが出来ず、高校生になりやっと実現させることが出来ました。

部活動では仲間と切磋琢磨する中で、自分がミスした理由や成功した理由を



常に考え、時にはアドバイスを求めながら練習しました。この能動的に考え行動することが、少ない練習時間でも結果を残す事が出来た理由だと思えます。県大会では、負け越している選手と対戦することもありとても緊張しました。しかし全力を出し切ることができ、東北大の出場権を得ることが出来ました。

卓球を通して学んだことは、楽な道に逃げないということです。苦労しても、その分結果として返ってくると思います。私は学んだことを生かし、より上位の成績を残せるように大学でも練習に励んでいます。

ハンドボール部

思いが詰まった大会

三年 清水田 大翔

まず初めに、全国選抜大会に出場するにあたり、多くの方々からご支援いただきました。誠にありがとうございました。そのおかげで全員が全力で戦うことができました。

私は東北予選会でチームが一番育ったと感じました。先輩方の分まで勝ち抜くことを誓い、臨みました。初戦から調子が良く、課題であった出だしの悪さを改善し、勝ち抜くことができました。私たちは試合後全員で喜びました。本当に嬉しかったです。全国大会では目標の初戦突破を達成しましたが、続く昭和学院高校に負けてしまい、ベスト16の成績を収めました。悔しい結果となりましたが、全国大会の雰囲気とレベルを体験することができ、本当に良い経験をする事ができました。改めてご支援、ご声援ありがとうございました。



とうございました。花高送球部は今後更に強くなると思います。これからも応援よろしく願います。本当にありがとうございました。

文芸部

部員一丸となって作り上げた『花北文学』

三年 伊藤 茜

今年度も、文芸部誌『花北文学』が県大会や全国大会で入賞することができました。

部誌のテーマに始まり、レイアウトや構成まで部員全員で熱い議論を交わしながら一丸となつて考え、部誌制作に取り組みました。また、今年から印刷会社さんとの原稿のやりとりの方法がデータでのやりとりが変わるなど、以前までと違うところもありましたが、上手く連携

を取りながら期限内余裕をもって部誌を完成させることができました。

また、部誌に掲載する部員ひとりひとりの個人作品の質を上げることにも力を注ぎました。プロットや作品の添削を複数回行ったり、創作力そのものを育てるために句会や歌会といった企画の頻度を増やしたりすることで、よりよい作品を書き上げることができたと思います。

今後とも花北文芸部の活動を温かく見守っていただけると幸いです。これから応援よろしく願います。



放送部

まずは楽しむことから

朗読部門参加 三年 下留 梨瑚

私は今回の大会を通して、最大限の力をだすためには、楽しむということが自分の作品の魅力を伝えるための必要十分条件だということに気がついた。特に県大会の決勝での朗読はこれまでの中で一番楽しく読むことができた。それは、

「いつも以上に多くの人に自分の朗読を伝えることができる」という胸の高鳴りがあつたからだ。全国大会では入賞できなかったが、読んだ本への私なりの答えを審査員の方に伝えることができ、良い経験になった。

全国大会に参加して

テレビドキュメント部門参加

三年 高橋 芳羽

全国の高校生が作った作品は、笑ってしまうような愉快なものや、考えさせられるような興味深いものなど、どれも手が込んでいて感心させられるものばかりでした。発想がとても豊かで、テーマや表現の仕方も様々で、見ていてとてもおもしろかったです。私自身も思いを込めて作った作品を発表することができ、充実した時間を過ごすことができました。最後の大会でこのような貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



応援団

第九十二代応援団を終えて

第九十二代応援団長

三年 滝田 健悟

新型コロナウイルスが五類になり、今まで制限されてきた応援を第九十二代で行えたことをとてもうれしく思う。花高応援団による野球応援やバンカラ六校による開会式応援を通して、「アツくなる」ことや「喜び」といった多くの感動を手にすることが出来た。笑顔かつ楽しく絶叫し、熱くなる花高生を間近で見ている時には心の底から感動した。花高生全員が「花高応援団」という名で一人ひとり繋がる事が出来、我々幹部にも負けな程の応援を見せてくれた。団員全員楽しんでそうに応援歌を叫び、各々が持っている想いを相手に伝えようとする眼差しを見せてくれたことが、団長になってよかったと思える瞬間だった。俺が当初から掲げてきた「自ら率先して創る楽しい応援」を達成できたと感じた。古き良き伝統を守りつつ新たに入ってくる花高生とともに、自らが参加したくなるような応援を共に創りあげて欲しい。黒橋魂がある限り愛する母校はより発展していくだろう。



令和5年度入試(令和4年度卒業生)の進路状況

大学入試が変更されて3年目の令和5年度大学入試を、就職内定者1名を除く213名が、大学進学を目標に「大学入学共通テスト」、その後の前期後期日程試験まで一丸となって受験に挑みました。その結果、国公立大学4年制大学に合格した者は、実数で135名(63.1%、昨年度60.2%)、のべ合格者数が141名であり(昨年度154名)、合格率は昨年度と同様の結果(51.8%)でした。過去5年間で最も多い合格者であった昨年度と、同様の成果でありました。東北大学合格者7名、昨年度過去最高となった地元岩手大学合格者と同程度の41名をはじめ、医学部医学科合格者を継続できました。このことは、今年度の生徒も例年通り普通の授業、課外授業、模擬試験に正面から向き合い、全力で進路先決定に取り組んでくれたためだと考えます。現在の大学選抜方式に対応し、学校種、学科種にかかわらず、どの進路先にも対応できる学力と人間力の形成を目指し、学習指導や進路指導の充実を図ってきましたが、その中で学習に真摯に向き合う生徒達の意思と意欲の高さを感じる場面が多く見られました。

創立90周年スローガン「百年生きる君たちが、花高百年の学びを創る」の基本理念を継承し、創立100周年に向けて進路指導も邁進していきたいと考えております。岩手県内の生徒数減少と都市部との学力差が叫ばれる昨今、岩手県の中核校として本校の存在意義はますます高まると予想されます。この厳しい状況のもと充実した進路指導を実践できることは、同窓会の皆様のご支援があったことと感謝しております。今後とも本校に対して、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。(進路指導主事 八尾 晃一)

令和5年度入試(令和4年度卒業生)合格状況

Table (1) 国立大学: List of national universities with columns for school name and R5 degree status (current/graduated).

Table (2) 公立大学: List of public universities with columns for school name and R5 degree status.

Table (3) 私立大学: List of private universities with columns for school name and R5 degree status.

Table (4) 国公立短期大学: List of national/public short-term universities with columns for school name and R5 degree status.

Table (5) 私立短期大学: List of private short-term universities with columns for school name and R5 degree status.

Table (6) 文部科学省所管外: List of schools outside the Ministry of Education with columns for school name and R5 degree status.

Table (7) その他: List of other schools with columns for school name and R5 degree status.

Table (8) 医学部医学科合格者数: Summary table for medical department/department of medicine合格者数.

※過卒合格者については学校に連絡があった者のみ

同窓会費納入状況

(令和5年12月31日現在)

期(卒業年)	残額(円)	期(卒業年)	残額(円)
31(昭和42年)		46(昭和57年)	
32(昭和43年)		47(昭和58年)	
33(昭和44年)		48(昭和59年)	
34(昭和45年)		49(昭和60年)	360,000
35(昭和46年)		50(昭和61年)	
36(昭和47年)		51(昭和62年)	
37(昭和48年)		52(昭和63年)	450,000
38(昭和49年)		53(平成元年)	490,000
39(昭和50年)		54(平成2年)	150,000
40(昭和51年)		55(平成3年)	510,000
41(昭和52年)		56(平成4年)	250,000
42(昭和53年)	410,000	57(平成5年)	510,000
43(昭和54年)		58(平成6年)	160,000
44(昭和55年)		59(平成7年)	510,000
45(昭和56年)		60(平成8年)	510,000

※「卒業年」は、その年の3月卒を表します。(残額合計 4,310,000円)

同窓会費納入のお願い

桜雲同窓会は、同窓生の皆様に納めて頂いている会費と、在校生の入会金によって運営されており、少子化による生徒数減少が続くと、同窓会事業の運営にも支障が生じる恐れが考えられます。

今後の同窓会運営のために、各期理事を中心に、会費納入の仕組み、現状を周知して頂き、会費の納入に特段のご協力をお願いいたします。

完納した期や会費を納入していただいた期は、同期会開催の際に会費納入に協力いただき、欠席の方には代表幹事宛に送金をしていただく等、工夫をされています。

なお、今年度は46期の皆様より会費

の納入がありましたことをご報告いたします。

桜雲同窓会事務局

会費納入の仕組み

【桜雲60期まで】

卒業時に一人当たり、三千元を入会金として納入。(すべての期が完納)

卒業後六年経過した時点より、各期年会費二万円を五十二年間納入。

【桜雲61期以降】

在学中に完納。(学年諸会費と一緒に納入)

寄贈・寄付のご紹介

※学校、同窓会へのご寄付もご紹介いたします。



○東梅久子氏(46期)

令和5年度文化講演会に講師として来校した際、「図書館に使用してほしい」と多大なご寄付をいただきました。3年生に「本校生徒に読んでほしいもの・本校図書館にあってほしいもの」を募り、33冊の本を購入しました。

○小友康広氏(65期)

「ASMSAへの生徒派遣事業に活用してほしい」と、小友康広氏並びに(株)小友木材店様より桜雲同窓会へ多大なご寄付をいただきました。

事務局だより

新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行された今年度は、四年ぶりに桜雲同窓会定期総会と懇談会がフル開催されました。出席いただいた同窓生の皆さんも声高らかに校歌や応援歌を歌うことができ、にぎやかで和やかな会となりました。支部総会も石巻谷関西、紫波東京、北海道、盛岡とそれぞれの地区で行われ、同窓生が交流できる場が戻ってきたことをうれしく感じています。

令和5年度

桜雲同窓会事務局(◎は事務局長)

- ◎夏谷健一 教諭(42期)(公民)
- 照井雅巳 教諭(49期)(理科)
- 菊池雄一 事務局長(50期)(事務)
- レヴィン小倉ちひろ 教諭(56期)(英語)
- 高橋和利 教諭(58期)(国語)
- 藤枝利覚 教諭(60期)(体育)
- 多田昌弘 教諭(64期)(英語)
- 古川麻耶 主査(71期)(事務)

最新 2019 桜雲同窓会員名簿

令和元年11月1日発行

【価格】8,000円(送料込み)

お申込み

【桜雲同窓会事務局】
花巻北高等学校内 TEL.0198-23-4134
【業務委託先】
(株)菊忠印刷 TEL.0198-42-2511

編集後記

今年私の期も久しぶりの同期会を開催、同級生たちと親交を深め、選歴を過ぎながらまだまだ各界でのみんなの活躍を知りました。

各界での活躍といえば、昨年の同窓会報に原稿を書いていた、著名脳外科医の谷川緑野さん(45期)と機会があつて45年ぶりに会いました。高校時代は同級生からも尊敬を集める人間性の応援団長で、現在の活躍はNHKのプロフェッショナル「仕事の流儀」でも取り上げられたほど。とはいえ、半世紀近くぶりに会ったとは思えないほどフレンドリーに会話ができ、高校時代以来彼なりに抱えていたわだかまりやコンプレックスなどを知りました。

1月には20歳以上の大先輩と知り合い、岩手で最高齢スキー指導員で、80代半ばとなった今でも雪が降ればスキーをしているという話をうかがいました。お邪魔したお宅もこだわりの家づくり、庭づくりで、精神的に人生を楽しんでいる様を眩しく感じました。私事ながら、このところ身体に自信もなくなり気力も萎え気味で、モチベーションがエネルギー源であるフリーランスとしてはフェイドアウトも頭にちらついていた。ここ数年でしたが、先輩、後輩、同級生に刺激を受け、本誌記事にある現役生たちの頑張りに励まされて、もう少しマイペースで頑張ろうという気になつていきます。花高OBで本当によかったです。

「桜雲」編集長 北山公路(43期)

桜雲同窓会 定期総会

令和6年8月3日(土) 午後2時

ホテルグランシェール花巻